

1. 2018年までに最低賃金160ドル達成

4/19、フン・セン首相は、与党人民党の目標として、2018年までに労働者の法定最低賃金を月額160米ドル(約1万9,000円)、公務員と軍人の給与を月100万リエル(約2万9,800円)まで引き上げると明らかにした。カンボジアの最低賃金は2014年1月に80米ドルから100米ドルに、今年初めにはさらに128米ドルまで引き上げられた。13年の総選挙時に野党側が最低賃金を150米ドルに引き上げると主張して躍進したこともあり、賃金上昇圧力は強い。

2. シェムレアプ州で大停電、4日後に復旧

4/22午後から、世界遺産アンコールワットがあるカンボジア北西部シェムレアプ州で、暴風雨による送電線の支柱倒壊による長時間停電が発生、4日がかりの復旧作業で26日未明に電力供給が再開された。21日から22日にかけてカンボジア各地を襲った暴風雨では、1人が死亡し、20人余りが負傷。住宅264棟が損壊した。カンボジア国家電力局幹部は26日、送電能力を強化するため、中国政府の支援で1億6,800万米ドル(約200億円)を投資し、高圧送電線2本を整備する計画を明らかにした。うち1本はバタンバン州、シェムレアプ州、コンボンチャム州を結ぶ。もう1本は首都プノンペン周辺に整備される。完成すれば、複数の送電ルートが確保され、停電防止効果が期待される。

3. 山東省の企業、カンボジアで農産物生産

中国の山東省煙台市を本拠とする煙台魯睿商貿集団が、カンボジアで農産物栽培に取り組んでいる。マンゴーやリュウガン、ドリアンなどを生産し、北京や上海、広州の大手スーパーにも出荷。同社の新たな収益源になりつつあるという。主に子供服を生産していた煙台魯睿商貿集団は3年前、カンボジア南部の港湾都市シアヌークビルに新会社「恒睿現代農業産業園」を立ち上げ、高級果物やドライフルーツの生産に乗り出した。現在の作付面積は3,100ヘクタールで、うち熱帯果物が600ヘクタール、水稻が2,000ヘクタールなど。今年はずでに4万トンの果物を中国向けに輸出し、大きな収益を挙げているという。同社の進出をきっかけに、シアヌークビルの市長が煙台市で投資誘致を行い、多くの企業がカンボジアの農業ビジネスに進出しつつある。同市ではもともとはアパレル産業が盛んだったが、人件費の高騰で海外からの受注が激減し、代替産業が求められていたことも背景にありそうだ。

4. 縫製業の輸出量発表、省庁によって大幅な違い

カンボジアの縫製業の成長率調査について、各省庁で違った数値が出ているようだ。2月、商務省で輸出入を管理している部署は、衣料品の輸出量について、2014年度57億5千万ドル(2013年よりも4%の成長)だったと発表。Garment Manufacturers Association in Cambodia (GMAC)が以前に発表していた、『2014年、カンボジア縫製業に成長はない』という予想は外れとなったわけだが、2013年の成長率が20%あったことを考えると、確実にスローダウンしているといえる。

しかし、一方、財務省の関税局は、2014年の衣料品の輸出総額は60億ドル、2013年より10.7%成長している、と発表。商務省の輸出管理局が出した輸出総額と2.5億ドルも差があることがわかる。カンボジアにおいて縫製業は、国のGDPのうち3分の1を占める重要なセクターであり、携わる労働者の数はおよそ60万人だ。しかしなぜ、商務省と財務省のリリースに、これほど差がでているのだろうか。商務省のスポークスマンKen Ratha氏は、「商務省の輸出入管理局は、縫製工場の受注履歴をもとに計算していますが、財務省の関税局は、実際にカンボジアのボーダーを超えたものの量で計算をしています。だから、財務省の数値の方が我々商務省のものより実際に近いと思います」と話した。また、計画省の国家会計部Keo Chetra氏は「政府も、国のGDPを出す際に財務省の数値のほうを参考にしているようです」と話す。

GMACの事務局長Ken Loo氏は「商務省の数値を信じます。しかし、正確な数値はなんにしる、数百万ドルの違いは大きな問題にはなりません。例え2014年、輸出業が11%の伸びを見せていたとしても、これは国を支える縫製業としてはかなり成長率が低く、心配すべき点でしょう」と話した。

5. BMWが飲酒運転で首相宅ボディガードをはねる



4/01の早朝、2人のボディガードが、突っ込んできた酔っ払いドライバーにはねられ、重傷を負う事故があった。現場はフン・セン首相の自宅の近く、事故を起こした車はおおよそ14万ドルの高級車、BMW SUVだ。フン・セン首相のボディガードであるYin Chanthoさんが足を骨折し、Seung Socheathさんは頭を負傷し耳から血を流していたという。運転していたのはUng Kol Sanik被告、26歳の女性である。車のコントロールを完全に失い深夜2時10分に事故を起こした。その後2人の友人と

もに逃走を試みたが、道に停めてあったバイクに突っ込んで停まったようだ。「警備員を跳ねた後も走り続けていました。しかしその後も木やバイクにぶつかったので、損傷により車は動かなくなりました」とプノンペン交通局の Dea Res 氏。事故が起こる前、BMW がスピードを上げてソティアロス通りを走っていたところを彼も目撃していたという。2 人の被害者はすぐにカルメット病院に搬送された。BMW Cambodia 社に勤めている Ung 被告は飲酒運転で逮捕。友人 2 人とともに裁判に出廷する予定。プノンペン交通局長の Chev Hek さんによると、Ung 被告は法で定められているアルコール量の 2 倍近い量を摂取していたという。「法律では、ドライバーから 0.46ml 以上のアルコールが検出されれば違法ですが、彼女からは 0.86ml も検出されました」と話す。

6. つばさ橋が開通



4/06、僧や村人を乗せたトラックが昨日、何台も列を連ねて Neak Loeng に向かった。彼らはドラムを叩き、つばさ橋の開通を祝うパレードを非公式だが行っていたようだ。この 36 年間、旅行者はメコン川を渡る際には、年代物のフェリーを使うしか手段はなかった。2200 メートルに渡って Kandal 州と Prey Ven 州を結ぶつばさ橋は、日本からの 1 億 2700 万ドルの投資により実現した。交通時間を大幅に短縮できるようになった。

4/06 朝 7 時 30 分の時点でおよそ 1 万人が集まり、開会式が行われた。フン・セン首相と日本の国土交通省 Nisimura Akihio 副大臣を待っている間、政府からパンの差し入れも配られていたようだ。また、70 年代のアメリカの曲『I'd love you to want me』が生演奏された。「橋があったらな、とずっと思っていました。だから今日は、私の夢が実現した日です。橋の開通は、多くのカンボジア人の利益につながります。日本の安倍首相に、心から感謝したいと思います。プノンペン、ホーチミン間の貿易にとって必須のルートとなるこの橋の完成は、カンボジアの発展の大きな前進になる」と、フン・セン首相は述べた。また、「橋の完成が、クメール正月に間にあったことも喜ばしい。けれどもこの橋から飛び込んで自殺をしないように、また、車輛は搭載量の限度を守り走り、交通法を遵守するように」、などと注意も呼びかけた。

しかしフェリーやそれに関わる商売をしていた人々は、今年の 1 月からポスト紙に対し、『橋の完成で、私たちの商売ができなくなる』と不安を明らかにしていたが、会場に集まった市民たちはやはりフェリーよりも橋を通して移動時間を短くしたい、と話していた。これまでは 1 時間、時期によっては最大 10 時間を要していたメコンリバーの移動が、橋の開通で 5 分まで短縮された。「病気になったとしても、フェリーを待つ必要があり、すぐに病院に行けませんでした。私の子供が高熱を出したときも、フェリーが運航を突然休んだりして大変だったものです」と Preah Dach 村の Khmao Rum さん 65 歳は話した。

7. 米ドーナツのクリスピー、カンボジア進出

4/20、米ドーナツチェーン大手クリスピー・クリーム・ドーナツは、タイの RMA グループ傘下にあるカンボジアの外食事業会社エクスプレイス・フード・グループ (EFG) と提携し、5 年以内にカンボジアで 10 店舗を展開すると発表。

8. 仏建材サンゴバン、カンボジアに商品供給

フランスの建材大手サンゴバンと電機大手シュナイダー・エレクトリックはこのほど、カンボジアのカムスター社の子会社 ISI グループに建築資材を供給する内容の覚書を結んだ。ISI グループはカンボジア国内の建築資材業者 300 社、建設会社 100 社余りに建築資材を供給する。

9. パナソニックが総合ショールーム、プノンペンで開業

4/27、パナソニックは、プノンペンに総合ショールームを開業した。現地市場向けの幅広い技術ソリューション、一般消費者向けの商品 (BtoC) および企業向けのビジネスソリューション (BtoB) を紹介する。総合ショールームでは、テレビや音響機器、洗濯機、デジタルカメラなどの製品を展示するほか、製品を体感してもらう「パナソニック・クッキング」と「パナソニック・ビューティー」のコーナーも設けた。同社関係者によると、6 月には観光都市シエムレアプにアフターサービスサポートを提供するサービスセンターがオープンする予定。

10. マレーシアのラスター、カンボジアで宝くじ事業

マレーシアの精密プラスチック部品メーカー、ラスター・インダストリーズは、カンボジアのカジノ・宝くじ市場に参入する計画を明らかにした。今後3年間で同国に1億リング(約 33 億 4,000 万円)の設備投資を行う。ラスターはカンボジアの数字選択式宝くじ(ロト)認可業者バン・カンボジアン・ロタリー・コープの株式 60%を、オパール・デラックスから 420 万米ドル(約5億円)で取得した。

11. カンボジアでGS投資を2年前倒し=50カ所体制、18年までに一タイ石油

国営タイ石油会社(PTT)の幹部サラン氏は、カンボジアで2015～18年にガソリンスタンド(GS)の増設に5億～10 億バーツを投資すると明らかにした。同社は現在、カンボジアでGSを20カ所展開。18年までに50カ所に引き上げる。サラン氏は「PTTは以前、カンボジアでのGS数を20年までに50カ所に増やすことを目標としたが、同国の経済成長率は毎年7%と順調な上、石油の需要増も見込めるため、投資の加速に踏み切った」と説明した。今年中に同国でのGS数を30カ所に増設する。カンボジアでのPTTの石油販売量は月間30万～50万リットル程度となり、マージンは1リットル当たり約3バーツでタイの同1. 50～1. 60バーツより高い。

以上